

旧北陸道沿い龍ヶ峰城跡公園を活用した山森集落の活性化に向けての創造

指導教員 石川工業高等専門学校 建築学科 教授 熊澤栄二

参加学生 太田真澄・山本麟太郎・山邊奈生（石川工業高等専門学校専攻科 環境建設工学専攻）
小林桃子・佐々木玲・笹嶋あゆみ・中萌乃・吉田祐子・バトボルド・バラス
上田健太・倉谷朋子・酒井智央・吉田智宥（石川工業高等専門学校 建築学科）

1. 活動の成果要約

龍ヶ峰城址を中心とした山森地区の歴史・観光資源の再整備のための現地調査および住民のヒアリング調査を実施した。地域の住民および石川高専学生らとの共同活動母体である「倶利伽羅を愛する会」を9月12日（登録人数30名）に設立した。築150年の本多邸を観光拠点とする観光5ヶ年計画の立案および本多邸の改装計画を実施するための実測調査を実施した。今年度は全体計画のうち下屋部分に多目的ベンチとなる雪囲いの制作を行った。

2. 活動の目的

加越国境の倶利伽羅峠を通る「北陸道」沿いの戦国城址である「龍ヶ峰城跡（山森地区）」は、津幡町の歴史形成を語る上で重要な歴史遺産であるが、周知度が低く訪れる人が少ない（課題1）。また山森集落は、旧北陸道沿い集落として発展し、古くは十数軒あった集落も、現在は住民登録されている家は1軒のみとなり（住民2名、高齢化率100%）、数年内に消滅の可能性が強い（課題2）。

以上の課題を踏まえ熊澤ゼミの活動は、山森地区の空き家（築150年 本多邸）を活用した過疎化に向けた新しい地域文化継承のための観光の拠点化整備を実施することを目的に開始する。特に本年度は、本多邸の改装計画および倶利伽羅駅を含む活性化計画の立案を目指す。

3. 活動の内容

地域から依頼に対して熊澤ゼミでは、次の4つの活動を設定した。

- ①観光資源調査：山森地域全域に残る歴史資源の再調査。
- ②観光対象設定：調査結果を踏まえ、山森集落の「空き家を利活用したイベント」企画を決定。
- ③観光整備計画策定：活動母体となる「倶利伽羅を愛する会」設立と会の活動内容の決定。
- ④空き家整備活動：ゼミ主体による本多邸一階 改装整備の実施。

活動は、本科4年、5年生が主体となって進められたが、プロジェクト・マネジメントのために、専攻科1,2年生を適宜指導役に入れて実施した。4年生は建築学課題演習の正規授業として、5年生は卒業研究の一環として参加した。

- ①観光資源調査：6月13日(3名)、7月18日(11名)、7月30日(6名)

平成29年度より開催された「倶利伽羅の歴史と文化を考える会（以下、「考える会）」にて山森集落ならびに龍ヶ峰城址公園の活性化および三十三間堂の観光資源としての利用、倶利伽羅地区刈安校区の現状（データ解析）について意見交換をする機会を得た。



【図1】平成30年9月14日付 北國新聞
「倶利伽羅を愛する会」発足

②観光対象設定：9月12日(8名)、11月8日(7名)、1月23日(2名)

9月12日に設立された「俱利伽羅を愛する会(以下、「愛する会」)」は、平成30年度までに3回開催された(図1)。「考える会」において議論された俱利伽羅地区に残る歴史的資源を活かした提案を、本多邸の改装案(以後、「拠点案」と合わせてどんなイベントや地域活動が可能なのか、地域住民とともに検討を行った。特に初回に当たる9月12日では、「愛する会」のメンバーが中心になって行いたい年間行事を、観光活動の中核施設となる拠点案と関連させながら議論を進めることができた。

拠点案では、俱利伽羅不動寺・龍ヶ峰城址公園への観光客への地域観光情報の提供・郷土料理のサービスを基本としながら、明治時代の暮らしを追体験することをコンセプトに据えた短期滞在者向けイベントを企画する方向で決定した。「愛する会」では、20年前に頓挫した集合住宅計画を再度誘致したいという意見が強く、俱利伽羅駅を中心とした住宅整備計画の課題も合わせて検討することが決定された。



【図2】本多邸実測(写真 上:6月・下:11月)

③観光整備計画策定：7月30日(6名)、9月12日(8名)、11月8日(7名)、1月23日(2名)

「考える会」において今後の活動母体となる「愛する会」の活動趣旨の検討など設立に向けた準備と調整を行った。また拠点案の活用に関わり、山森地区における飲料水の確保の技術的な問題、短期宿泊を想定した飲食提供に関わる設備の問題、観光客の来訪に備えてのトイレ設備の問題、学生の設計提案に対する技術的な問題について意見交換、指導を頂いた(図3)。

「愛する会」の議論では、計画当初に想定されていなかった俱利伽羅駅と連携した道の駅・集合住宅構想という新しい課題を検討する機会に恵まれた(図10)。この計画は5年生の中さんが卒業研究として取り組み、11月、1月に発表(図5,6)し、住民の意見を集約した形で2月下旬に完成する予定である。



【図3】本多邸改装案意見交換会(7月30日)

④空き家整備活動：6月～7月まで計7回(毎回5名参加)、9月以降は必要に応じて随時実測調査を実施。9月～11月で基本計画、11月～12月末に実施設計(毎日2～3名参加)、1月下旬から2月にかけて制作開始(毎日4～5名参加)

a. 本多邸実測調査：本科4年生と5年生を中心として実測調査を行った。木曜日の最終コマの授業が、建築学課題演習(4年生)・卒業研究(5年生)、特別研究(専攻科1,2年生)に設定されているため、異学年合同での調査チームを編成



【図4】平成30年11月26日付 北國新聞 「空き家を改修、活用」

して実施した。実測作業は4,5年生が担当し、専攻科生が野帳のつけ方、測定位置の指示・指導などを行った。一度の調査で2チームを編成し、家主である本多日出男氏の話しを頼りに過去の増改築以前の部材位置、部屋割りなどを推定して復元に当たった(図4)。

b. 軸組模型の検討および改装案の矩計設計:8月は5年生のバラス君を中心に3Dモデルを作成した上で、部材寸法の確認と図面化を行った(図8)。併せて1/20の軸組模型を作成し、改装計画の検討を行った(図5下)。実施設計では、1/5の模型を作成し施工方法や運用上の安全を確認した上で矩計図面を作成した(12月下旬から1月上旬)。

c. 雪囲いベンチの制作:1月下旬から、矩計図面を基に今年度設置が決定された「雪囲いベンチ」(図9)の制作を開始した。なお、本多邸は降雪期に向けて、既存の雪囲いの設置を12月中旬に完了している。

今年度は、雪囲いベンチをパーツ毎に制作し、現地まで搬送・据付設置することにした。円滑な作業を進めるために工程表を学生自らが企画・作成し、制作のプロセスは勿論、出来方の管理を行う体制で作業を進めている(図7)。



【図5】 倶利伽羅を愛する会 意見交換会
上:第2回(11月6日),下:3回(1月23日)

4. 活動の成果

活動の成果として、次の4つにまとめる。

I. 活動母体としての「倶利伽羅を愛する会」の設立

倶利伽羅地区の住民と熊澤ゼミとが、地域の課題を相互共有できるプラットフォームを構築できた。地域住民の生の声を地域ニーズとして学生は理解すると同時に、自由に意見交換を行うことで、学生は自らの研究シーズとして主体的に地域の問題解決に向き合うことができた。

II. 観光活動拠点としての本多邸 改装案の実現

旧北陸道とともに住み継いできた山森地区は既に限界集落化して、数年後には廃村の危機に瀕している。しかし、今回のゼミ活動を通じて観光客そして学生と地域住民との橋頭堡(接点・足場)を確保することに成功した。

III. 倶利伽羅地区(刈安校区)の地域将来構想の共有

津幡倶利伽羅バイパス(国道8号線)とIRいしかわ鉄道の倶利伽羅駅といった石川県屈指の交通の大動脈を有する地区として、地の利を生かし持続可能な発展を踏まえた住宅開発の可能性を見出すことができた。

IV. 実践教育の場の確保

学内の実験室では到底学べない実際の社会的な課題に学生が触れることで、座学や日頃の演習で学んだ専門知識を活かし、社会に貢献する現場を経験できた。加えて、ゼミで継承してきた建築設計の技術やプロジェクトの工程管理などの技法を持続可能にする継承システムの構築に成功した。



【図6】平成30年1月25日付
北國新聞
「倶利伽羅を愛する会」主催
「地域活性化意見交換会」



【図7】「雪囲いベンチ」制作風景 1月下旬

5. 次年度の計画

計画 1. 新規工事計画：

拠点案(本多邸)では、今年は「雪囲いベンチ」を制作し、既設の雪囲いを外す4月には常設設置を目指す。次年度の新規制作として、座敷の場所に「かまどテーブル」(図9)を建設するところまで目標にする。加えて水洗設備の敷設計画を検討する。

計画 2. 施工システム構築：

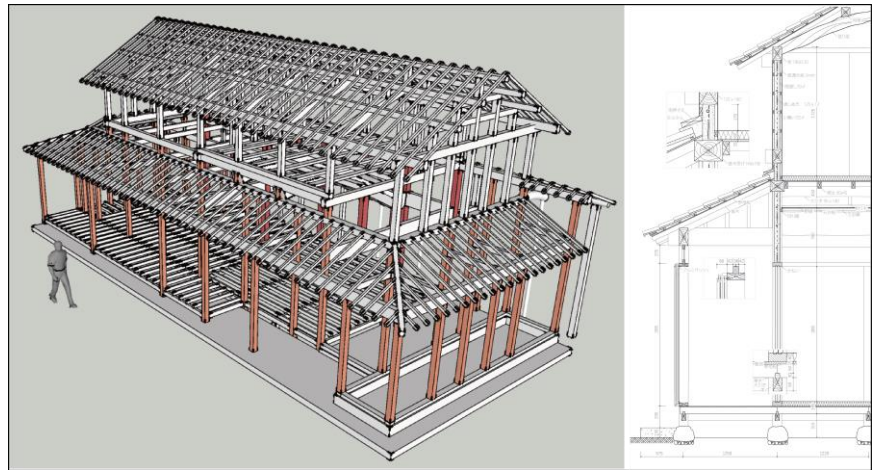
地域住民には施工経験が豊富な技術者も含まれるので、次年度は地域住民の指導を仰ぎなら、学生と協働して施工を行うためのノウ・ハウの構築を目指す。

計画 3. 観光イベントの実装：

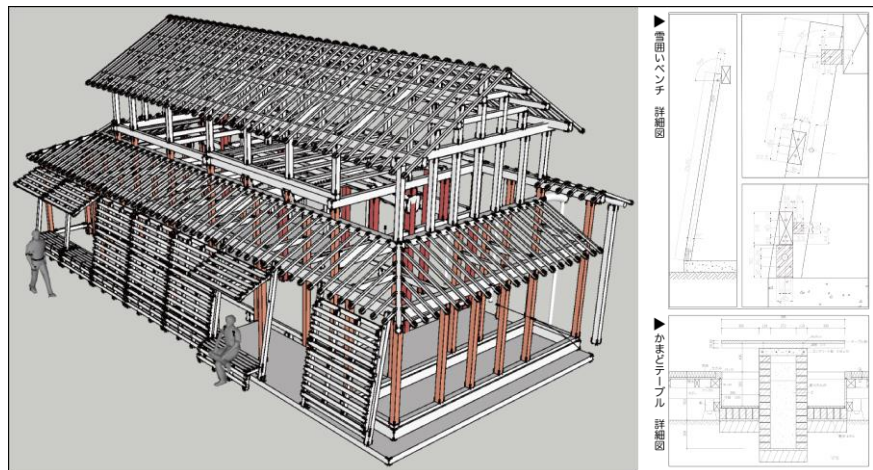
改装した本多邸において、「愛する会」で決定した各種体験型イベントを試行的に実施する。また水洗設備の設置を目処に、短期宿泊の可能性を検討する。

計画 4. 持続可能な集合住宅の研究協議会の設置：

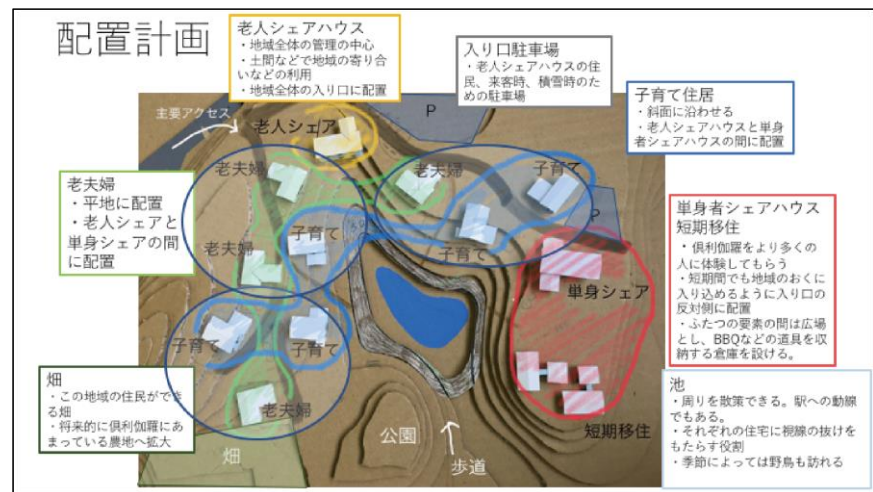
集合住宅の計画(図10)については、その実現可能性の可能性を検討するため、「愛する会」をベースとして行政、不動産関連企業と連携した研究協議会の立ち上げ、事業化計画の立案を図る。



【図8】本多邸 実測調査結果(平成30年度) 3Dモデルによる構造復元図



【図9】本多邸改装案 雪囲いベンチ(平成30年度)、かまどテーブル(平成31年度)



【図10】刈安将来計画案 持続可能な生活を実現する集合住宅構想案

6. 活動に対する地域からの評価

熊澤ゼミによる活動は今年度が初年度であり、地域においては、体制整備として「俱利伽羅を愛する会」を組織化しました。今年度の中心議題はこの会との意見交換となりました。来年度は本事業で推進中の本多邸(空き家)の改築を地域住民と一緒にすることや、それを活用したウォーキングを開催予定です。地域課題解決に向けて、今後も本事業を継続し、地域行政も巻き込み、住民と一体となった積極的なアイデアや意見を期待したいと思います。(刈安公民館長 山名一男 氏)